

13 知りたくないの

内田樹「寝ながら学べる構造主義」

50

1! 本文

① よい入門書は、まず最初に「私たちは何を知らないのか」を問います。「私たちはなぜそのことを知らないままで今日まで済ませてこられたのか」を問います。これは実にラディカルな問いかけです。なぜ、私たちはあることを「知らない」のでしょうか？ なぜ今日までそれを「知らずに」きたのでしょうか。単に面倒くさかっただけなのでしょうか？

② それは違います。私たちが知らない理由はたいしての場合「つしかりありません。「知りたくない」からです。より厳密に言えば「自分があることを「知りたくない」と思っていることを知りたくない」からです。

③ 無知というのはたんなる知識の欠如ではありません。「知らずにいたい」というひたむきな努力の成果です。無知は怠惰の結果ではなく、勤勉の結果なのです。

④ 嘘だと思ったら、親が説教くさいことを言い始めた瞬間に「ふいと遠い目をする」子どもの様子を思い出して下さい。子どもは、親が「世間話モード」から「説教モード」に切り替わる瞬間をしつかり見切って、即座に耳を「オフ」にします。教師に対しても、バイト先の店長に対しても同じです。子どもは「大人の説教」をひとことでも耳に入れないために、アンテナを張り巡らし、「説教」の兆候がないかどうか、**「不断の警戒を怠りません」**たいへんな努力だと思いませんか？ もしも子どもが単に不注意で怠惰であるだけだったら、「ついつい」つかりして、親の説教を最後まで**「真剣」**に聞いてしまった」ということだつて起こつてよいはずですが、でも「そんなことは絶対に起こりませんね。」

⑤ あることを知らないというのは、ほとんどの場合、それを知りたくないからです。知らずに済ませるための努力を惜しまないからです。ですから「私たちは何を知らないのか」という問いは、適切に究明されるならば、**「私たちが必死になんかから目を逸らそうとしているもの」**を指示してくれるはずですが、

作者&作品について

作者 内田 樹(うちだ たつる)

一九五〇(昭25)年、東京都生まれ。フランス現代思想が専門。映画に詳しく、その批評をしたり合気道など武芸に通じていたり、活動は幅広い。作品に『下流志向』『日本辺境論』などがある。

作品 『寝ながら学べる構造主義』二〇〇二年発表。

市民講座の講義ノートをもとに書かれた、入門者のための構造主義の平易な解説書。問題文は「まえがき」の部分から採った。

語の意味

構造主義：人間や社会の諸現象が相互に関連しながら結びついている「全体構造」を想定し、その中で個々の現象をとらえてゆく立場。

漢字 語句 チェック

①～④ 1点×10、A～C 2点×3

- Ⓐ 厳密＝厳しくて細かな点まで注意が行き届いている。
- Ⓑ 怠惰＝するべきことをせず、なまけている。反勤勉。
- Ⓒ 即座＝「即座に」で、その場ですぐに。例即座に答える。
- Ⓓ 巡らす＝張り巡らす」で、周りを囲むように張る。
- Ⓔ 兆候＝何かが起こりそうな前触れ。類前兆。兆し。
- Ⓕ 警戒＝(よくないことが起こらないように)注意し、用心すること。
- Ⓖ 怠る＝するべきことをしないでいる。例注意を怠る。
- Ⓗ 真剣＝まじめに心を打ち込んでいる。例真剣な目つき。
- Ⓘ 絶対＝「絶対に～ない」で、決して～ない。例絶対に許さない。
- Ⓚ 惜しむ＝努力を使うことを嫌がる。例協力を惜しまない。
- Ⓐ 欠如＝イの本来あるべきものが欠けていること。例常識の欠如。
- Ⓑ 見切る＝ア・イ・ウの意味があるが、この場合はウの判断する。
- Ⓒ 不断＝イの意味(優柔不断)も持つが、この場合はア。例不断の努力。

@ポイント! 3

空欄に文中の語句を入れよ。

(2点×4)

- 1 私たちがあることを知らない理由は、それを**知りたくない**からであり、更に言えば、自分がそう思っていることを**知りたくない**からである。
- 2 無知は**知識の欠如や怠惰**の結果ではなく、「知らずにいたい」という努力の成果、つまり**勤勉**の結果である。
- 3 だから、「私たちは何を知らないのか」という問いを究明すると、私たちが見たくないものを教えてくれる。

4! 設問

- ① 語句——線部①「ラディカル」の意味として最も適切なものを次から選べ。(4点)
「ラディカル(ラジカルという表記もあり)」には、「過激・極端なさま、急進的」(例：ラディカルな行動)と、「根本的」(例：ラディカルな原理)との二つの意味がある。ここでは入門書の最初の問いかけという文脈からも後者がふさわしい。正解はウ。
- ② 説明——線部②「耳を「オフ」にします」について、「耳を「オフ」に」した時の様子を述べた表現を、本文中から十字以内で抜き出せ。(5点)
「耳を「オフ」にする」とはどういうことか。「オフ」は(スイッチなどを)切ることで、「耳のスイッチを切る」とはつまり「聞かないようにする」の意味である。傍線部の後の「耳に入れない」がその言い換えであるが、ここでは意味そのものではなくそうした時の「様子」が聞かれているのであるから、正解は「ふいと遠い目をする(9字)」。該当箇所が「様子」に掛かっていることもヒントになる。
- ③ 語句——線部③「たいへんな努力」とほぼ同じ意味で使われている漢字二字の熟語を、本文中から抜き出せ。(5点)
③段落に「ひたむきな努力」という表現があり、傍線部「たいへんな努力」の同義語といえる。それを言い換えた「勤勉」(対義語は直前の「怠惰」)が正解。
- ④ 説明——線部④「そんなことは絶対に起こりませんね」について、筆者がそういう理由として最も適切なものを次から選べ。(6点)
「そんなこと」の内容は、「子どもがうっかりして親の説教を真剣に聞いてしまうこと」であり、それが絶対に起こらないのは④段落17～19行目にあるように、「子どもは大人の説教を耳に入れないために、説教の兆候に対して不断の警戒を怠らないから」である。それを正確に述べているのはエである。

選択肢判定チェック

- ア 子どもというものは生まれつきの性質として、不注意でも怠惰でもないから。
[説教は有難くないから聞きたくない]である。(X)
- イ 子どもは実際は親の言葉が有難く、一言も聞き漏らさずいと身構えているから。
[遠い目をする(「耳を「オフ」にする)であつて遠散とは書いていない]。(X)
- ウ 子どもは要領がよく、親の説教が始まるのを察知するとその場を退散するから。
[説教を耳に入れないために]に合致。(○)
- エ 子どもは説教を聞かないで済むように、常に親の様子に注意を払っているから。
[説教の兆候に対する不断の警戒を怠らない]に合致。(○)

選択肢判定チェック

- ⑤ 全題——Aに入る言葉として、最も適切なものを次から選べ。(6点)
筆者の主張は②段落にあらわれ、⑤段落でも繰り返されているように、「人があることを知らない理由は、それを知りたくないからである」に尽きる。裏を返せば、「あることを知っている理由は、それを知りたいからである」ということになる。つまり我々は「知りたい」と意志したものは知っており、「知りたくない」と意志したものは知らないということになる。だから、「何を知らないのか」つまり「知らないもの」を究明することは、「知りたくない」と思ったものを明らかにすることと同じだ、という理屈で考えると、正解はア。
- ア 私たちが必死になってそこから目を逸らそうとしているもの。
[知りたくない]の言い換えとして認められる。(○)
- イ 私たちの興味や関心が実際のところどこに向かっているのか。
[反対の「どこ」に向かっている]か「なら許容できる」。(X)
- ウ 私たちが説教というものをどれほど激しく敬遠しているのか。
[説教は具体例に過ぎず主張とは外れている]。(X)
- エ 私たちの無知が将来引き起こすことになるだろう状況の予測。
[知らない]ことが何を引き起こすかについては話題にない。(X)

5! 50 字チャレンジ

次の空欄に適当な語句を書き入れ、本文を五十字程度でまとめよう。

無知は怠惰の結果でなく勤勉の結果である
何を知らないのかを究明すると、自分の知
知りたくないものがわかる。



評論

茂木健一郎「セレンディピティの時代」

1! 本文

① ドストエフスキーなどのロシアの文学作品を読んで「劣等感こそが人を育てる」「劣等感こそが芸術の創造性につながる」ということ。そもそも、劣等感がなければ、人は、芸術性の深みに達することができないのではないか。

② ロシアは大国だが、ヨーロッパというものに「貫した劣等感を抱いていた。文化の先進国である西欧諸国に、憧れと羨望のまなざしを注いでいたのである。帝政ロシア時代の貴族の子弟はフランス人の家庭教師によって教育された。このため、ロシア語がもとにできないのにフランス語はしゃべれるロシア人が続出したという。

③ ドストエフスキーも、ヨーロッパの文物に憧れ、そのこともあって、小説を書き始めてしばらくしてヨーロッパに数年間滞在した。その過程で、ドストエフスキーはヨーロッパの文明に「失望」と伝えられる。西欧の文化が、あまりにも物質主義であることに、落胆したのである。

④ その結果、文豪はロシアに立ち帰った。ロシアはヨーロッパに比べれば確かに洗練されていない場所ではある。しかし、そのロシアの大地にこそ、自分たちが拠って立つべき母胎があり、人間性を探究し深めるための道筋がある。そのような「発見」をした時に、ドストエフスキーは人間性の本質に迫るような名作をもつことができたのである。

⑤ トルストイの「戦争と平和」(1865年)では、ロシアが当時「飛ぶ鳥を落とす勢い」のナポレオン率いるフランス軍と戦う。ロシアにとって、フランスと言えば、ヨーロッパ諸国の中でも「とりわけ憧れと羨望の対象としてきた国である。そのフランスと戦ってロシアが勝ってしまうというところに、ロシアにとってこの戦争が持った画期的かつ衝撃的な意味合いがある。それまでの「劣等生」が、「優等生」を打ち負かしてしまったのだ。

⑥ 日本とロシアの、ヨーロッパに対する立ち位置は似ている。日本の近代もまた、劣等感から始まった。明治維新となり、開国してヨーロッパに赴いた当時の日本人の驚きはどれほど大きかったろう。自らがヨーロッパのはるか後塵を拝していることに気づいた日本は、「ひたすら」富国強兵の道を追求めた。「劣等生」が、「優等生」に追いつこうと必死になって頑張ったのである。そのような日本の歴史と、ヨーロッパの文化に憧れ、それを吸収しようと頑張ったロシアの歴史は似ている。日本人がロシア文学に親近感を覚える理由がここにある。

作者&作品について

作者 茂木健一郎(もぎ けんいちろう)

一九六二(昭三十七)年。東京都生まれ。脳科学者。意識下で起動しながらも数量化できない、微妙な質感である「クオリア」をキーワードに、脳と心の関係を探る。作品に「脳と創造性」「化粧する脳」などがある。

作品 『セレンディピティの時代 偶然の幸運に出会う方法』二〇〇九年発表。

問題文は、「第17章 劣等感こそ、バネにせよ!」の部分から採った。

漢字 語句 チェック

(a)注ぐ 一つのことに向ける。例愛情を注ぐ。

(b)失望 当てが外れたり、望みをなくしたりして、がっかりすること。

(c)落胆 期待が外れ、がっかりして気を落とすこと。例失望。気落ち。

(d)文豪 偉大な作家。例昭和の文豪。

(e)洗練 文章や人格などを高尚なものにすること。例洗練された文章。

(f)母胎 物事が生まれ出るもとになるもの。例発明の母胎となる研究。

(g)率いる 引き連れる。また、指図して大勢の人を動かす。

(h)画期的 新しい時代をひらいたといえるほど、めざましい。

(i)赴く ある方向に向かって行く。例現場に赴く。

(j)驚き 思いがけないことに落ち着きをなくすこと。感嘆すること。

A 拠って立つ 正解はア。行動するうえで、ある事柄をよりどころとする。

B 飛ぶ鳥を落とす勢い 正解はウ。勢力が盛んで強大であるさま。

C 後塵を拝する 正解はイ。先じられ、その後について行く。

ポイント! 3

空欄に文中の語句を入れよ。

(2点×3)

- 1 ロシアの文学作品を読んで思うことは、劣等感こそが人を育て、芸術の創造性につながるということである。
2 ロシアはヨーロッパ、特にフランスに一貫した劣等感を抱き、憧れと羨望のまなざしを注いできたが、そのような国と戦争して勝ったことには画期的かつ衝撃的な意味合いがあった。
3 日本の近代も、ヨーロッパに対する劣等感から始まった。明治維新後の日本の歴史はロシアの歴史と似ており、それが日本人がロシア文学に親近感を覚える理由である。

4! 設問

① 語句 A~Cに入る語として最適なものを次から選べ。(2点×3)

選択肢のそれぞれの副詞の意味合いをみると、ア「とりわけ」は「中でも特に」、イ「ひたすら」は「他は無視してそればかり」、ウ「つくづく」は「種々の経験や観点から帰着して」というニュアンスを持つ。また、それぞれの副詞の係り先を見ると、Aは「思う」、Bは「憧れと羨望の」対象とし、Cは「追い求めた」であり、ウ「つくづく」が入りそうなのはAだけなのでまず確定する。B・Cはそれぞれ単独で見ればア・イのどちらもよさそうであるが、Bの前の「中でも」という語に着目すると、ア「とりわけ」が適し、Cは「追い求めた」という動詞に係けるにはイ「ひたすら」が適している。よって正解は「Aウ、Bア、Cイ」。

② 文豪 Iに入る作家を次から選べ。(3点)

「戦争と平和」は世界的にも有名なトルストイの作品。ちなみに、ア「ツルゲーネフ」(「獵人日記」・「はつ恋」などの作品がある)と、ウ「トルストイ」(他の作品に「アンナ・カレーニナ」・「復活」など)がロシアの作家。イ「カフカ」はチエコスロバキア生まれのドイツ語で作品を書いた作家。「変身」で知られる。エ「ヘミングウェイ」は「武器よさらば」・「老人と海」などで著名なアメリカの作家。よって正解はウ。

③ 理由 線部①について、「発見」に「」がついている理由を次から選べ。(6点)

ドストエフスキーはヨーロッパに「憧れ」、「数年間滞在した」が、「失望」して祖国に帰り、「ロシアの大地にこそ、自分たちが拠って立つべき母胎がある」と認識したという文脈で、それは祖国の良さの「再発見」にはかならない。

④ 説明 線部②及び線部③の「劣等生」と「優等生」が指すものを、それぞれ本文中の一語で答えよ。(3点×2)
②は傍線部の二行前に「フランスと戦ってロシアが勝ってしまった」を、③は同じく二行前からの「日本人の驚きはどれほど大きかったろう。自らがヨーロッパのはるか後塵を拝していることに気づいた」を参照する。正解は順に「②の劣等生 ロシア、②の優等生 フランス、③の劣等生 日本、③の優等生 ヨーロッパ」。

⑤ まとめ 本文の内容の説明として正しいものを次から選べ。(7点)
ア ロシアは西欧諸国の進んだ科学技術に、憧れと羨望のまなざしを注ぎ劣等感を抱いていた。
イ ドストエフスキーはヨーロッパに憧れを抱きつつも、一貫してロシアの大地で人間性を探究した。
ウ ロシアにとって、憧れの国フランスと戦えたというところに画期的かつ衝撃的な意味合いがあった。
エ 日本人がロシア文学に親近感を覚えるのは、対西欧という観点で両国の歴史が似ているからである。

選択肢判定チェック
エ 日本がロシア文学に親近感を覚えるのは、対西欧という観点で両国の歴史が似ているからである。

5! 50 字チャレンジ

次の空欄に適切な語句を書き入れ、本文を五十文字程度でまとめよう。

Table with 2 columns: Japanese text and English text. Japanese text: 日本の歴史とロシアの歴史はヨーロッパに... 劣等感とロシアの歴史はヨーロッパに... 親近感を覚える。 English text: The history of Japan and the history of Russia are similar because...

1! 本文

① 一 一九五九年、東京 大阪間を約七時間で結ぶ特急電車「こだま」号が登場した。② その運転士さんと助手さんである。なんとしてもあれはもう古い代物だから、情け容赦もなく人の努力を食う。あそこに同乗して見ればわかるが、大車輪のはたらきというのはこの人たちのことだとしか思えぬ。汽車の車を動かすために、人はもつと大きい車になって働いている感がある。いたましく困るのである。その上にこの蒸気のおかまは老いて気むずかしいから、運転にも投炭にも技術はうんと要求されている。トンネルのなかなどへ入るとほんとに、「こんななかで亭主や息子を働かせちゃおけない！」という女心が出る。

③ 一方には小面倒な数の計算さえ、ひとりでする器械がある世の中に、一方では人間がまっくらけの大車輪だ。それでもその機関車は幾むかしか前には、時代の花形であり、今日なお老残の身に山坂を駆け回っているのだ。そう、いたましく困る。使えるうちは働くのが義務だろう。だが、この型はあともう製造されない、やがて廃棄されるのである。それもしかたがない。ただ乗務員だ。機関車が廃棄になるなら、運転士のこの技術もこれまでの労苦もいわけば行きどまりになるのだ。「ですから、改めてむずかしい電気機関車の勉強をしておすです。」平穩にそう言う。だが中年になって改めての勉強は楽でない。若い助手さんにしても途中からでは、忍耐のいる勉強だろう。しかも現在の日々はまだ蒸気を動かして、あえて精励しなければ職務はつけないのだ。切りかえどきにいる人は気の毒だ。不平も文句も言わず、勉強する、習うとあの人たちは言った。進歩もえらいことだが、進歩に黙々と従う人に勇気を見るのである。

④ そして車庫を出れば、折から冬の短日は暮れようとして、西の空だけが明るく、温度はぐつと低く夕風がある。露天の機関車置場には古めかしい型の、比較的新しい型の、いろんな機関車が、西の西の片明かりを受けててろりと黒く、いまは静かに休憩していた。働くものの、働いたもののひっそりした威厳ある休息であった。ありがたい人たちと機関車たちだと思った。

作者&作品について
幸田 文(こうだ あや)
一 一九〇四(明37)年〜一九九〇(平2)年。東京生まれ。文豪幸田露伴の次女として生まれ、厳しいしつけを受けた。作品に、父の回想記『終焉』、随筆『こんなこと』、小説『おとうと』などがある。

作品 「汽車」一九五九年発表。(初出・西日本新聞)
問題文は、「幸田文 旅の手帖」(二〇一〇年 平凡社刊行)に収録。

漢字 語句 チェック

① 好(この)もしさ ② 感じがよいこと。 ③ 例(れい)好(こう)もしい青年。

④ 代物(しろもの) ⑤ 特別な評価の対象となる人や物。

⑥ 努力(どりょく) ⑦ 生産に必要な労働力。 ⑧ 類人(るいじん)手。

⑨ 小面倒(こめんどろ) ⑩ 少しずらずわしいこと。 ⑪ ちよつとややこしいこと。

⑫ 幾(いく) ⑬ 不定の数量を表す語。 ⑭ 例(れい)幾人(いくにん)。 ⑮ 幾(いく)キ口。

⑯ 老残(らうぜん) ⑰ 老(おい)はれてもお生き長らえること。

⑱ 義務(ぎむ) ⑲ 当然しなければならぬこと。 ⑳ 対(たい)権利(けんり)。

㉑ 精励(せいりき) ㉒ 仕事や学業に力を尽くして励み努めること。 ㉓ 例(れい)勉学(べんがく)に精励(せいりき)する。

㉔ 比較(ひかく)的(てき) ㉕ 他(た)と比べると、やや。 ㉖ 例(れい)冬(ふゆ)にしては比較(ひかく)的(てき)暖(ぬる)かい。

㉗ 休憩(きゅうけい) ㉘ ひと休みすること。 ㉙ 類(るい)休息(きゅうし)。

㉚ A 情(じやう)け容(よう)赦(じや)もなく ㉛ 正(せい)解(かい)は A。 ㉜ 思(おも)いやりの心(こゝろ)も手(て)加(か)減(げん)もなく。

㉝ B いたしかたない ㉞ 正(せい)解(かい)は B。 どうしようもない。

㉟ C 露天(てん) ㊱ 正(せい)解(かい)は C。 屋(や)根(ね)などのおおいのない所(ところ)。 ㊲ 類(るい)野(や)天(てん)。 ㊳ 例(れい)露(ろ)天(てん)風(ふう)呂(り)。

㊴ D 片(ぺん)明(めい)かり ㊵ 正(せい)解(かい)は D。 ほ(ほ)のかな(かな)あ(あ)かり。 う(う)す(す)あ(あ)かり。

ポイント! 3

空欄に文中の語句を入れよ。(2点×3)
1 こだま号は時代の花形だが、幾むかしか前に花形だった蒸気機関車も、今日なお山坂を駆け回っている。
2 だが、あともう製造されない蒸気機関車は、やがて廃棄され、運転士の技術も労苦もいわけば行きどまりになるのだ。
3 だから運転士も助手も、むずかしい電気機関車の勉強を改めてしなおし、不平も文句も言わず進歩に黙々と従うのである。

4! 設問

① 表裏 Aには「一所懸命に頑張ること」という意味の比喩表現が入る。本文中から三字以内の熟語を抜き出せ。(4点)

② 内容 線部①「こだま号はいわば時代の花形である」について、(1)この本文中で「こだま号」と対比されているものを、本文中から五字以内で抜き出せ。(4点)
傍線部と同じ行の「でも」(逆接)は、対比関係を読み取る大きな目印。その文には、筆者がこだま号と「同分量に親しく思う(2行目)」対象が示されている。正解は「蒸気機関車(5字)」。「汽車ポッポ(3・4行目)」は児童語のため2点。

(2)「時代の花形」に対して、(1)はどのような擬人表現で表されているか。本文中から四字の語句を抜き出せ。(4点)
「花形」とは、人気者、スターのこと。「幾むかしか前には、時代の花形で、今日なお老残の身に：(14・15行目)」から、現在の蒸気機関車の姿を表す語句を抜き出す。「老残」は、老いばれたまま生きながらえること。正解は「老残の身」。

③ 語句 線部②の「女心」を簡潔に形容している語句を、本文中から十字以内で抜き出せ。(4点)
筆者が「こんななかで亭主や息子を働かせちゃおけない！」と心でつぶやくのは、煙まみれの運転士や投炭(燃料の石炭を釜に投入する)助手の働く姿が「いたましく(9行目)」感じるからだ。問題文の「形容している語句」という指示をたよりに、この形容詞を含む部分を探す。よって正解は「いたましく困る(8字)」。

④ 理由 線部③「切りかえどきにいる人は気の毒だ」と筆者が考える理由として、最も適切なものを次から選べ。(5点)
ア むずかしい勉強を平穩にこなさなければならぬから。
イ 中年になってから改めて勉強しなければならぬから。
ウ 忍耐のいる勉強にあえて精励しなければならぬから。
エ 切りかえどきにいる人に限らず求められること。
オ 現在の職務を行いながら勉強しなければならないから。

⑤ 主旨 線部④「ありがたい人たち」とあるが、筆者はどんな人に何を感じているのか。その説明となっている部分を、本文中から十五字で抜き出せ。(5点)
「ありがたい」は、ここでは「自然に敬いたくなる」という意味。機関車の運転士や助手のどんな姿に、何を感じて、筆者は敬意を抱くのか。本文後半に語られるのは、時代の進歩に「不平も文句も言わず、勉強する(24行目)」人々への強い共感だ。技術発展と人間のあり方を考える上で、発表から半世紀たった今も説得力をもつ主張として味わいたい。正解は「進歩に黙々と従う人に勇気を見る」。

5! 50 字チャレンジ

次の空欄に適切な語句を書き入れ、本文を五十字程度でまとめよう。

の	で	時	代	の	花	形	も	や	が	て	老	残	の	身	と	な	る	世	の	中
に	進	歩	に	黙	々	と	従	い	働	く	も	の	働	いた	も					
	勇	気	や	威	厳	を	感	じ	る	の	で	あ	る							

16 生き延びるためのルール

菅野 仁「友だち幻想」

50

1! 本文

① 社会のルールで何が一番大事かということは、いろいろな社会によって微妙に違って来るかもしれませんが、でも、どんな社会にでも大体共通して大事に考えられているルールがあります。それは、「盗むな、殺すな」という原則です。これは、社会のメンバーそれぞれの生命と財産をお互いに尊重するというルールになっているわけです。

@ポイント! 3

空欄に文中の語句を入れよ。(2点×4)
1 社会のルールとして特に大事なものは、「盗むな、殺すな」という原則である。
2 この原則は、世のため人のためのルールと考える必要はなく、自分を守るために他人を尊重するという、生命の自己保存のためのルールである。

4! 設問

① 理由——線部①「別に世のため人のためのルールと考える必要はない」について、なぜそういえるのか。次から選べ。(6点)
ア 自分の気分しだいで勝手な行動をとることが許されるから。
イ 直前に「自己保存のためのルール」とあり、傍線部の内容から考えて(X)
ウ 最終的には自分自身の生命や財産を守ることになるから。
エ 結局は自分だけが生き延びられることにつながるから。

② 推察——線部②「こうした観点」とはどうか。次から選べ。(6点)
「こうした観点」とは、「盗むな、殺すな」というルールは、「自分が被害を受けないために、お互いそういうことはやらないでおきましょう」という契約である、ということを指している。

③ 内容——線部③「残念ながら」とあるが、どういう点で「残念」なのか。次から選べ。(6点)
ア 誰かをいじめることで、自分がやられるかもしれない状況を作ること。
イ 「盗むな、殺すな」というルールを、社会全体で守つていかねばならないこと。
ウ いろいろなルールを、世のため人のためと思う必要がないこと。
エ 他人に危害を加えないことが、自分を守ることにつながるということ。

2! ことば

作者 菅野 仁(かんの ひとし)
一九六〇(昭三十五)年〜二〇一六(平二十八)年。宮城県生まれ。社会学者。『自分の問題』として(社会)について考えるための知的技法の追究』をテーマに、考察を続けている。
作品 『友だち幻想 人と人の(つながり)を考える』二〇〇八年発表。大切な友だちとの関係で傷つき、悩むのはなぜだろう。問題文は、「第4章『ルール関係』と『フリーリング共有関係』」の部分から採った。

- 漢字 語句 チェック
a 尊重 価値意義のあるものとして大切に扱うこと。
b 勝手 他人のことは考えないで、自分のしたいようにすること。
c 結局 結論として。最終的に。最後のところ。
d 保存 「自己保存」は、生物が自己の生命を維持・発展させようとする。
e 状況 その時その場面の状態や事情。
f 危害 生命を脅かしたり、身体を傷つたりする害。
g 契約 売買や貸借、雇用などの、法的な効力を持つ約束を交わすこと。
h 逆転 物事の状況がそれまでとは反対になること。
i 総崩れ 全体が崩れてまとまりがなくなること。
j 保障 侵されたり損なわれたりしないように、保護し守ること。
A 微妙 正解はア。はつきりと言えないほど細かいこと。
B 物理的 正解はウ。数量として認識できるさま。
C 賢人 正解はイ。頭の良い人。

5! 50 字チャレンジ

Table with 2 columns: Kanji and Reading. Kanji: 他人, 原則, 守る, 直結, 自分, 生命, 財産, 社会. Reading: 他人に危害を加えてはならないという生命や財産を、原則を守ることは、自分の生命や財産を直結している。